

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備えた知徳体のバランスのとれた生徒を育てる教育をめざす。

- 1 生徒が学ぶことの大切さ、自身の成長を実感し着実に目標に向かって進む精神力、進路実現できる確かな学力、生涯にわたって学び続ける学力を育成する。
- 2 互いの違いを認め合い、社会生活を送ることのできる豊かな人間性、コミュニケーション力を育成する。
- 3 「行きたい学校」「行かせたい学校」として地域から信頼され、地域教育の拠点となる開かれた学校をつくる。
- 4 共生推進教室の仲間と「ともに学びともに育つ」学校、規律ある、安全で安心な学校をつくる。

### 2 中期的目標

- 1 自らの進路を切り開くことのできる「確かな学力」を育成する
  - (1) 授業力の向上を重点課題とし、総合学科として特色ある授業づくりのさらなる充実に取り組む。
    - ア 相互に授業力を高めあえる校内研修を行い、生徒が主体的に学ぶ授業を展開する。  
授業スタイルの研究、相互授業見学による授業力の向上、公開授業の実施、ICT活用を推進し、「魅力ある授業、興味関心をかきたてられる授業、学びの喜びが散りばめられた授業、生徒が主体的に学ぶ授業」を展開し、学びの質を高める。
    - イ 「パッケージ研修」等、様々な研修機会を積極的に取り入れる。
    - ウ ICT環境の整備に努め、ICTを活用した授業を推進し、魅力ある授業をつくる。
  - (2) 基礎学力を落とさない取り組み、個に応じた進路指導により、個々の生徒の進路実現をめざす。
    - ア キャリア教育計画に基づき、キャリア教育の充実を図る。
    - イ データ分析により個々の生徒の現状や課題を把握し、組織的に適切な進路指導ができる体制を整える。
    - ウ 補習や講習の充実、進路カウンセリング体制の強化により、進路実現満足度 90%以上をめざす。
    - エ 自学自習の習慣を確立させる。
  - (3) 資格取得を積極的に推進する。
- 2 自尊感情、自己肯定感をはぐくみ、豊かな人間性を育てる
  - (1) 学校行事や部活動を通じて様々な人とかかわりながら物事を成し遂げる調整力やコミュニケーション力など人間関係力の育成を図る
    - ア 生徒会活動、学校行事、部活動などにおける生徒の主体的な取り組みを支援し、帰属意識を高める。
  - (2) 共生教育を推進し、「ともに学び、ともに育つ」をスローガンに、生徒も教職員も共に育つ教育を実践する。
  - (3) 人権学習の充実を図り、互いの違いを認め合える豊かな心を育む。
  - (4) 総合学科の特色を生かし、地域交流、国際交流等を推進し、生徒の自己肯定感、自尊感情を育む。
  - (5) 社会貢献できる体制、自主的に学ぼうとする意欲をかなえる体制を整備する。
- 3 安心・安全な学校づくり
  - (1) 授業規律の確立、一丸となった生徒指導、校内美化・清掃の充実、あいさつ、言葉かけの励行など、本校がこれまで実践してきた実践を今後も継続し、安心して過ごせる雰囲気維持する。
  - (2) 教育相談や人権教育体制を充実し、いじめ防止に取組み、安心して学校生活を送れるよう支援する。
  - (3) 広報活動を充実し、地域や保護者から信頼される「開かれた学校」作りを行う。
  - (4) 実践的な危機管理マニュアルを作成し、危機管理体制の整備を図り、自らの命を守るために行動できる態度を育てる。
    - ア 老朽化した施設の点検・確認を、校内の危険個所の改修をすすめる。
    - イ 生徒が最も長い時間を過ごす教室内の安全確保の観点から、入り口扉のガラスの透明化を行う。
- 4 効率的な学校運営体制の構築
  - (1) 学校全体として目標を共有し、スピード感を持って様々な課題を発見、対応、改善できる組織として再構築する。
  - (2) 学校教育の全体像を視覚化し、共通認識を深め、それぞれの取組みの意義を理解し実施できるようにする。
  - (3) ICTを活用した情報共有体制を整え、業務の引継ぎ、情報の共有化を行い、業務の効率化を行う。
  - (4) OJTを充実させ、「学び続ける教員集団」をつくり、学校運営の中核を担う「ミドルリーダー」を育成する。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析【平成 27 年 12 月実施分】	学校協議会からの意見
1 アクティブラーニング型授業の推進により、授業に関する項目の評価値が上昇し、授業の質の向上につながった。 ①「自分の考えをまとめたり、話し合ったり発表する」53%⇒63% 特に1年生の授業について評価値が高かった。 1年 37%⇒64% ②「ICTを活用した授業が多い」 44%⇒64% 2「学校に行くのが楽しい」という生徒が増加。 70%⇒77% 3「学校生活についての先生の指導」には納得感がない。45%⇒43% 4 保護者の「わかりやすく楽しい授業」の評価値は変わらず。 生徒理解の高い授業をめざすことが次年度への課題 54%⇒51% 5 保護者のHP利用率は大幅に改善。 37%⇒66% 携帯メールの発信についても評価が得られた。 6 学校行事の規制について改善を求める声が多く寄せられた。生徒、保護者がともに楽しめる行事となるよう、見直しを進める。	<第1回 授業について> ・少人数指導は総合学科の魅力。普通科とは違う総合学科に戸惑う保護者もいるようだが、この点はもっと良さとしてアピールすべきだと思う。 ・授業見学をして、生徒の興味・関心が引き出されているのが見受けられた。これが家庭学習へつながればよいと思う。少人数の授業は、授業担当者との距離が近く親近感が持てる。 <第2回 授業力向上の取組みについて> ・授業を見てもらう、見せてもらうということは授業を客観視するためにも大切なこと。ぜひ取り組んでいただきたい。様々な体験的な学習が準備されていてワクワクするが、取組みに参加できない生徒をどうするかということも考える必要がある。 <第3回 学校教育自己診断結果について> ・行事に対する意見が多い。もっと保護者に説明をする必要がある。 ・授業見学に来た保護者の評価が高い。もっと保護者の方に来ていただいて授業を見ていただければよい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	(1) 授業力の向上を図り、基礎学力を高める 7) 校内研修の推進 ｲ) 授業研究の推進 ｳ) ICT環境の整備  (2) 個に応じた進路指導の充実を図る。 7) キャリア教育の充実 ｲ) ガイダンス指導の充実  ｳ) 補習・講習の充実 ｲ) 家庭学習時間の充実	(1) 学ぶ意欲、考える力、わかる喜びを引き出す授業の研究に取組む。 7) 教科の枠を超えた組織された「青雲プロジェクト」が主体となり、公開授業、職員ミーティングなど、教員間の研修を推進する。 ｲ) 「わかる授業」の研究をすすめ、 ・授業力向上のための研修を実施する。 ・カリキュラムの見直しを行う。 ｳ) ICT環境の整備をすすめ、ICT活用を推進する。 (2) 7) キャリア教育計画を作成し、3年間を見通したキャリア教育の視覚化を行い、教職員で共有する。 ｲ) 個々のデータを分析しガイダンス指導の充実を図る。 ｳ) SS道場、土曜講習、夏・冬の勉強合宿を行い、自学自習の習慣を身につけさせる。 ｲ) 学年、クラブ顧問と連携を図り、家庭学習時間の充実に向けた指導を行う。	授業アンケート項目8,9平均3.0以上の講座数 H26:64%⇒66% 7) 1回以上実施 ｲ) 1回以上実施 ｳ) ICT機器の一部導入  (2) 7) 計画の作成 ｲ) 1,2生へのガイダンス指導の実施  ｳ) ｲ) 勉強合宿参加者維持 H26:72人 家庭学習時間1時間以上の生徒 H26:51%⇒H27:55%へ	(1) 7月実施アンケート3.0以上の講座59.6%↓12月実施分の結果59.7%↓(△) 7) ｲ) 授業力向上研修および公開授業はパッケージ研修Ⅱにより実施。全体研修は9月、1月に実施。10月末、11月に公開授業を実施後、研究協議を実施。職員ミーティングによる意見交換も実施できた。(◎) ｳ) ICT機器として、移動式のものを導入。全教員への研修も2回実施し、活用が進んだ。(○) (2) 7) 完成に至っていない。検討課題(△) ｲ) 個別面談を重ね、的確な科目選択となるよう指導できている(○) ｳ) 勉強合宿参加者数72名(○) ｲ) 家庭学習時間(学校教育自己診断) 平日1時間以上の学習3年:70%、2年:31%、1年41%、平均47%であった。2年生の学習時間が少ないことが課題(△)
2 自尊感情、自己肯定感を高く、豊かな人間性を育てる	(1) コミュニケーション力、人間関係力の育成を図る。  (2) 共生推進教育の推進  (3) 人権学習の充実  (4) 総合学科の特色を生かし、地域交流、国際交流を推進する (5) 自主的な活動を通して学ぶ機会の整備	(1) 7) 全ての教育活動の中で、生徒自らが思考し、意見を述べ合いながら物事を達成していく機会を多く取り入れ、人間関係を築く力を育てる。 ｲ) 学校行事の規制を見直し、生徒が主体性を発揮できるように改善する。 (2) 7) 総合学科、共生推進教室双方の生徒の交流の機会を設定し、「共に育つ」を実践する。 ｲ) フレンドだよりの発行 (3) 7) 各学年において人権HRを実施する ｲ) 教職員向けの人権研修を実施し、人権意識を高める。 (4) 7) one day trip、地域清掃を継続実施する。 ｲ) 各授業やHRなど、様々な場面で発表の機会を積極的に取り入れ、情報発信力を高める。 (5) クラブ活動や個人参加も含めて、学校全体としてボランティア活動を積極的に推進する。	(1) 7) ｲ) 学校教育自己診断結果「意見を発表する」 H26:1年37%⇒40% 教員「問題解決的な指導」 H26:62%⇒70% 「指導方法の工夫改善」 H26:57%⇒60% 「行事が楽しい」 H26:3年62%⇒70% (2) 7) 行事の実施2回以上 ｲ) 各学期2回以上 (3) 7) ｲ) 人権HRの実施各学年1回以上 (4) 7) 各1回実施 ｲ) 学校教育自己診断結果の改善 (5) ボランティア活動の実施10回以上	(1) 7) ｲ) 昨年度より継続してAL型授業の導入を推進。授業の改善が進んだ。行事についても楽しいとする評価値が向上している。意見を発表する授業37%⇒64%↑(◎) 問題解決的指導62%⇒79%↑(◎) 指導の工夫57%⇒59%↑(○) 行事が楽しい62%⇒73%↑(○) (2) 7月七夕交流、クリスマス交流を実施。生徒の相互交流ができた。(○) フレンドだよりの発行も1月現在第7号まで発行(○) (3) SNSの現状と課題、身体障がいテーマに研修を実施。職員研修は3学期に実施。(○) (4) 予定通り実施できた。(○) (5) 今年度は教育Gの情報提供により参加者数は10件、のべ52名となり、目標を上回った。(◎)
3 安心・安全な学校づくり	(1) 安心安全な学習環境の維持  (2) 教育相談体制の充実  (3) 広報活動の充実  (4) 自らの命を守る態度の育成	(1) 7) 授業規律の確立、遅刻指導、あいさつ指導など本校のこれまでの取組みを継続する。 ｲ) HRや授業において、積極的にアクティブラーニングを意識した授業を行い、緊張感の軽減を図り、コミュニケーションを取りやすい状態をつくる。 ｳ) 学校行事の見直しを行い、充実を図る。 (2) ・教育相談体制の周知(特に1年生) ・教員に対して生徒情報についてのアンケートを実施し、多方面から個々の生徒についての情報を収集、集約し、情報の共有化を図る。 (3) 7) 在校生の協力をもとに行う学校説明会を継続し、生徒によるPRを推進する。 ｲ) メールマガジンを活用し、保護者へのこまめな情報提供を行う。 ｳ) メールマガジンと連携して学年情報もWebページにその都度掲載し、わかりやすい情報発信を行う。 (4) 緊急時の対応をわかりやすく生徒保護者に周知し、緊急時の行動を理解させる。	(1) 7) 遅刻数1600件以下 ｲ) 学校教育自己診断授業中意見を発表する H26:平均53%⇒60% ｳ) 見直しの実施 (2) 学校教育自己診断結果の改善 H26平均59%⇒65% (3) 7) 生徒と共につくる学校説明会の実施 ｲ) メールマガジンの発信数の改善 ｳ) webページの閲覧 H26:保護者平均37%⇒40% (4) 緊急時の行動に対する理解度(学校教育自己診断) H26:60%⇒70%	(1) 生徒指導Gの指導の継続による効果と1年学年団の朝読の実施により1年生遅刻数は大幅に減少。1500件に近づきつつある。(○) ｲ) 3年生にははすまねージメント、学年独自HR、スポーツ大会などにより「仲間作り」を実施。選択科目によりHRとしての結束が弱くなる部分を強化している。意見の発表平均53%⇒63%↑(◎) ｳ) 学校教育自己診断ではやや評価値が向上したが、次年度への継続課題である。(△) (2) 委員長とSCとの連携が取りやすいよう担当者を任命。継続相談へ対応しやすいように見直しを行った。学年と連携した相談業務を行うことができた。(○) (3) 7) 昨年度同様、在校生の学校案内に高い評価をいただいた。今年度も継続実施。(○) ｲ) ｳ) メールマガジン発行数を大幅に増加し、情報発信力が強化された。(◎) 携帯メール発信数3月末63件↑(◎) Webページ利用率35%⇒60%↑(◎) (4) H27 64% やや向上した(○)
4 効率的な学校運営体制の構築	(1) 学校運営組織の見直し (2) 学校教育の全体像の視覚化 (3) ICTを活用した情報の共有化 (4) OJTの充実 7) 教員力向上のための研修の実施 ｲ) 研修報告による情報の共有化を図る	(1) 業務全体を見直し、効率的な学校運営をめざす。 (2) 学校教育の全体像を視覚化し、共通理解が図れるようにする。 (3) 分掌、学年、各種委員会、授業教材など電子データ化できるものについては電子化をすすめ、業務の移行をスムーズにし、後継者の負担感を軽減する。 (4) 7) 初任者、経験年数の若い教員を中心にOJTを実施し、教育者としての基礎知識の充実を図る。 ｲ) 職員会議に研修報告の場を設定し、有意義な情報について、教職員間で共有できるようにする。	(1) 会議等の改善 (2) 学校教育の全体像をまとめた資料の作成 (3) 学校教育自己診断教職員アンケート結果(新規) (4) 7) OJTの実施5回以上 ｲ) 研修報告の実施 学校教育自己診断教職員アンケート H26:40%⇒45%	(1) あまり改善できなかった(△) (2) 次年度以降への検討課題(△) (3) 引き継ぎについては62%の教員が肯定的だが、十分とは言えない。継続課題。(△) (4) OJTについては教務、教育相談、生徒指導、先輩教員、人権等、様々な立場から実施できた。 職員会議に研修報告の機会を設け、外部研修の報告を実施。 研修報告の機会40%⇒68%↑(○)